

子育てを通しての親の不安と成長について 吉川晴美（東京家政学院大）

目的 子どもや子育てにたいして不安を抱く親が増えているといわれる今日、親はどのような不安や思いを抱えているのかを明らかにし、親としての成長について考察する。

方法 埼玉県A市保健センターで実施する三歳児健診時（1999年度）の保護者267名を対象とする質問紙調査（近藤由紀、鈴木環との協同作成）の結果から分析・考察する。

結果 回答者267名のうち、子育てが「常に不安」が5%、「時々不安」が25%、「たまに不安」が57%、「全くない」が13%の割合をしめ、9割近くの親は不安に思うことがあることがわかった。「結婚前と現在での考え方が変わったか」について、変わった親は45%、変わっていない親は46%とほぼ半々であった。「変わった親」のなかで、「子どもによって育てられていると感じる」等、子育てをプラスの方向で考えている親は17%、「理想と現実の違い」「とても大変」等、マイナスの方向で考えている親は22%であった。さらに「変わらない」親は「常に不安群」で有意に($p < .01$)少なく、「マイナスに変わった群」では「常に不安」で有意に($P < .01$)多く「不安なし」で有意に($P < .01$)少なかった。また、親子関係の持ち方との関係では、内接的な関係とする親は考え方がプラスに変化する傾向($P < .01$)がみられた。その他、親が有職である方がプラスの方向に変化する傾向($P < .05$)がみられた。これらのことから、不安が強い親は、子育てを「こんなはずではなかった」等とマイナスに考えがちであり、結婚前から子どもを含めた様々な人間関係の学習が大切であると考察された。不安を軽減し、前向きに子育てに関わる契機として、親子関係の内接的な関係、親自身の独自の活動（仕事等）をもつこと等、いくつかの示唆を得ることができた。